

2012 年 4 月 20 日

派遣先 インド国タミルナードゥ州チェンナイ市、マドゥライ市
 西ベンガル州コルコタ市、オリッサ州ブバネシュワール市
派遣期間 2012 年 1 月 10 日～4 月 10 日（91 日間）
派遣者 佐藤慶子（京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科
 グローバル地域研究専攻・研修員）

1. 派遣の概要

本派遣の目的は次の 3 つである。1) “祭り” に関するフィールドワークを行い、南インドの農村社会構造の理解に繋げる、2) タミルナードゥ州以外の他州を訪問し、タミルナードゥ農村との比較考察に益するべく視野の涵養をはかる、3) 人の移動（特に、労働力の農村から都市への移動）に着目して、都市部における経済発展の様子をつぶさに観察するため、都市部に滞在して図書館などで文献調査を行う、である。

そのため、1) では、タミルナードゥ州マドゥライ県の農村でフィールドワークを行い、マドゥライ県立図書館や神智教会 (Theosophical Society) マドライ支部で文献調査を行った。2) では、インド東部に位置するオリッサ州（ブバネシュワール）および西ベンガル州（コルコタ）の市内に滞在し、西ベンガルの都市や農村に関する情報収集を行って、今後の調査の可能性を探った。3) では、タミルナードゥ州チェンナイの市街中心部に滞在し、アンナ中央図書館 (Anna Central Library) や私設図書館などを利用して文献調査を行った。

特に 1) マドゥライ県の農村調査では、本プログラムの海外パートナー機関の一つであるタミルナードゥ農業大学 (TNAU) の研究者に紹介して頂いた村で調査を行った。以下、本滞在の概要および調査内容につき記させて頂く。

2. タミルナードゥ州マドゥライ県農村におけるフィールドワーク

（滞在期間：2012 年 1 月 11 日～1 月 26 日）

2. 1 調査目的

マドゥライ県でカースト自治組織¹により伝統的に担われてきた村祭りのうち、ジャリカット (*Jallikattu*) と呼ばれる『祭り』を取り上げて、過去に行った調査村の社会構造に関する追加調査も併せて行い、農村社会構造の解明を行う。

2. 2 調査内容

まず調査地（農村部）で行われている祭りを記す²。2012 年³では、1 月 14 日～17 日のボ

¹ 詳細は、佐藤[2012]を参照。

² ヒンズー教や農業の祭りのみを取り上げた。

³ 開催日時は太陰暦により決められるため毎年異なる。

頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム・2011 年度・派遣報告書

ンガル（米の収穫感謝祭）、2 月 20 日のマハ・シバラートリー（宇宙と破壊の神シバ神への徹夜の祈祷）、4 月 13 日のヴァルシャ・ピラップ（タミル歴による元日）、4 月中旬から 5 月中旬のムッターランマン（天然痘の神への祈祷）、7 月 24 日のナーグ・パンチャミー（蛇神への祈祷）、10 月 16 日～23 日の間のナバラートリー（ヒンズー教の神の人形をひな壇に飾る）や 10 月 21 日のパールバティ・プージャ（ガネーシャ神の母で良妻賢母の女神への祈祷）である（表 1 参照）。なかでも、ポンガル、シバラートリー、ムッターランマンの開催が多い。

表 1 調査地域でみられるヒンズーの祭りの種類

祭りの名前	（アルファベット表記）	祭りの内容	時期	村祭り
タイ・ポンガル ⁽¹⁾	Pongal	インドラ神（＝雨をもたらす神）への収穫感謝	1月14日	●
マートウ・ポンガル	Mathu pongal	農業を手伝う牛への感謝	1月15日	●
ジャリカット	Jallikattu	若者の勇気を試す闘牛の競技	1月16/17日	●
マハ・シバラートリー	Maha Shivaratri	シバ神（＝宇宙創造の神）への徹夜の祈祷	2月20日	●
ヴァルシャ・ピラップ	Tamil New Year	タミル歴による1月1日、お正月	4月13日	
ムッターランマン	Mariammal	マリアンマン神（＝天然痘の女神）への祈祷	4月中旬～5月中旬	●
ナーグ・パンチャミー	Nag Panchami	蛇神への祈祷	7月24日	●
クリシュナ・ジェイアンティ	Krishna Jayanthi	クリシュナ神（＝宇宙を守護するビシュヌ神の変化）の誕生祝い	8月10日	
ヴィナーヤカ・チャットルティ	Ganesh Chaturthi	ガネーシャ神（＝シバ神の息子）の誕生祝い	9月19日	
ナバラートリー・プージャ	Navaratri	ヒンズーの主要な神様を象った人形をひな壇にて祭る	10月16日～23日	
パールバティ・プージャ ⁽²⁾	Paruvathi puja	パールバティ神（＝良妻賢母でガネーシャ神の母）への祈祷	10月21日	●
ラクシュミ・プージャ	Lakshmi puja	ラクシュミ女神（＝幸運と金運の神、吉祥天）への祈祷	10月29日	
ディヴァーラーリ ⁽³⁾	Deepvali	ラーマヤーナ物語のラーマ王子の帰還を祝う	11月13日	

注：（1）ポンガルは3～4日間続く。（2）ドゥルガー女神やカーリー女神と同一視される。（3）帰還を祝い（花）火を灯す。

出所：筆者フィールドワーク

なかでも 1 月中旬に行われる米の収穫祭であるポンガル4祭りでは、特にタミルナードゥ州マドゥライ県や近隣県では、ジャリカット（＝*Jallikattu*、英語で"bull taming"と訳）と呼ばれる『牛追い競技』が行われている。以下、ジャリカットの説明である。

『観衆が見守る中、アリーナに出てきた牛の背中に闘牛士が素手で体当たりして抱きつき、そのまま牛がジャンプする間に闘牛士が一人だけしがみつくと出来たら勝者となり、賞品（＝自転車、アルマリ、扇風機、ステンレス鍋、金貨、のいずれか）がその場で渡されるルールである（もし牛が数十人の闘牛士から逃げる事が出来たら、牛のオーナーが賞品を受け取る）。タミル地方には、古代からこうした風習（＝牛の角にコインをぶらさげて奪う慣習）があったが、近代になると、各地のザミンダール（＝地方領主）の所領で強い牛を育てて、牛の角に衣服をつけて闘牛士にそれを競って奪わせる競技となっていた⁵。モヘンジョダロの遺跡にも闘牛士の証拠がある⁶。』

ジャリカットはマドゥライ県近隣において各地で開かれているが、大規模なものでは数千人の観客を集める。そして競技の開催に先立ち、寺で祈祷を受け化粧を施された牛が観衆

⁴ タミルナードゥ以外の地域(カルナタカ州など)ではマカラ・サンクラーンティーと呼ばれる。

⁵ Superintendent of Government Printing Calcutta[1908]参照。

⁶ The Hindu[2012]参照。

の大歓声の中アリーナを進むことから、ヒンズー教の儀式的な色彩を多少とも含む格好で行われている。



写真1 ジャリカット（その1）

写真2 ジャリカット2（その2）

筆者の聞き取りによると、ジャリカットを主催するカーストは村のレベルを超えて開催地域一帯で祭りに向けて結束して行動を起こすが⁷、その一方で、主催カーストと同じ村に居住する他のカーストは、ジャリカットを主催するカーストからの要請を受けて、村の同じカースト世帯から参加費を徴収して、祭りの開催を側面支援する。その際の費用の徴収は、ナッタマイと呼ばれカースト別にいる村の開祖の家の家長が行う。こうして地域がらみで開催される祭りでは開催委員会が組織され、それぞれのカーストを代表する者が委員会に名を連ねて、祭りの開催にむけて協調して行動をおこしている。

次に補足調査⁸を行った調査村の概要である⁹（表2参照）。マドライ県の北部と南部に位置しており、マドライや周辺の町から10～20キロ前後離れていずれも幹線道路に面し、バス停や鉄道の駅も近くて都市部へのアクセスが良い。特に近年は、非農業職で得られる収入が農業職のそれと比べて高いことから、調査地域では非農業就業へ移行する農家が顕著に見られており（Sato[2011]）、そのため調査村でも村を離れて町に移った離村世帯が非常に多い。これまで都市部への離村は、上層の裕福なカーストから進んできたのであるが（Greenwood [1971]）（Yanagisawa [1996]）、最近では下層カーストの者も村から姿を消し、村には農耕カーストのみが残っていることも多い。2011年センサス速報値によると、タミルナドゥ州全体の2001-2011年の平均人口増加率は、農村部6.5%、都市部27.2%であり、最近では農村部から都市部への離村が加速状況にあることが示されている。

⁷ マドライ県北部のパラメドゥ村では、Jallikattu 祭りのための委員会（名称：マハリンガサミ・グラマ・ポドゥ・マダン）が1972年に設立され、以来今日まで続く。その際11人のメンバーは異なるカーストから構成される（The Hindu[2012]）。おそらく名目的に有力カーストの者が名を連ねていると思われる。

⁸ 表2の調査村のいくつかを訪ね、データの再確認を行った。

⁹ 詳細は佐藤[2012]を参照。

頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム・2011 年度・派遣報告書

表2 調査村の概要

番号	農村・都市の別	行政村の面積 (ha)	行政村の人口 (人)	行政村の就業者割合 ⁽¹⁾	カーストによる村の性格	カースト・パンチャヤート	祭りの開催頻度	カースト別のSHGの形成	村の特徴
①	農村	326	614	30%	シングル	有（バラヤール）	5-7年に1回	耕作カーストのみ	97%バラヤール（耕作カースト）。
②	農村	132	1062	44%	マルチ	有（カラール）	10年に1回	SCと他カーストは別	3割の地主カーストと7割の農業労働（SC）カースト。後者は祭りに参加出来ない。
③	農村	85	998	35%	シングル	無（バラール、停止）	なし	SCのみ	ほぼ農業労働（SC）カーストのみ。非農業就業傾向が強い。
④	都市	342	8622	不明	マルチ	不明	毎年	（カースト別：不明）	農業労働（SC）カーストの経済上昇の傾向が顕著。毎年祭りを開催。
⑤	農村	213	377	62%	マルチ	有（マルチカースト）	2年に1回	一緒	富裕なナイドゥ。SCカーストの経済上昇で、祭りを一緒に行う。SCの間でSHGさかん。
⑥	農村	534	3343	不明	マルチ	無（コナール、停止）	毎年	一緒	コナールで元ナットマイ世帯が25年間GP長で絶大な権力。祭りを毎年開催。
⑦	都市	668	1496	不明	シングル	不明	毎年	（カースト別：不明）	灌漑水に恵まれた水田地帯の村にはバラヤールののみ残り、農業を行う。
⑧	農村	1677	3131	65%	シングル	有（バラヤール）	数年に1回	一緒	8割強バラヤール（耕作カースト）でカースト組織活動。他の少数カーストも追随。

注：(1) 人口に占める就業者の割合。

出所：筆者フィールドワーク

表2によると、各調査村（＝自然村）には概ね100世帯未満～400世帯前後のヒンズー・カーストを主体とする住民が居住している。カーストとは、より厳密にはジャーティと呼ばれる共食・内婚による生活規範に基づく職能集団のことである。呼び名も地域や州によりやや異なるが¹⁰、以下、調査村におけるカーストに関する概略を記す。

表3は政府による現在の行政区分に従ったカースト区分と、筆者がフィールド調査で訪れたマドライ県の調査村（20村未満）における観察結果である。以下、行政区分と各区分に含まれるカーストのおおまかな分類を記す。まず上層カーストには、祭祀を行う者や伝統的に地主であった者が含まれる。次に、後進カーストには、農民や耕作を行ってきた者や商業カーストの者が含まれる。現在は村落の支配層となっているカーストも多い。そして最も後進なカーストと区分されるのは、サービス・カーストと称される職業カーストだが、耕作、洗濯、床屋、農業労働を行う者がいる。彼らはこれまでカーストの最底辺に位置づけられ、土地を持たずに各々のカーストによる職種を行ってきたが、現在は後述の留保制度の恩恵をさほど受けられないため¹¹、経済的貧困者が多く見られる。最後に、かつてカーストの枠に入れずアウトカーストとされて農業労働などを行ってきたカーストで、指定カースト（Scheduled Caste、SC）と呼ばれる。しかし最近では都市部などで多くの者が経済的に成功をおさめている。村にもそうした成功者による寄付を通じて、経済的な恩恵がトリックル・ダウンされている。大学進学者も多い。ちなみに調査村にはST（＝指定部族）やムスリム、クリスチャンは離村して皆無であった。

各カーストは後述のいずれかの行政区分に括られるが、これは留保制度とも関係している。留保制度とは、公立大学への進学や公務員職に応募する際に、カーストの行政区分により募集枠や採用条件が異なっており、特に行政区分上でSCやSTとされた下層のカーストは

¹⁰ 呼び名も地域や州によりやや異なるが、ここではマドライ県での呼称を記した。

¹¹ 押川[1990]参照。

ど有利な条件で進学・就職できる、というものである¹²。この制度は現在ひろくインド全土で採用されているが、もとはと言えば 20 世紀初頭にみられたバラモン等の少数の上層カーストによる公務員就業者や大学入学者の独占（特にタミルナードゥでは約 9 割を占めていた〔辛島[2000]〕）に対する批判・反省などが発端となっている。つまり、従来のカースト秩序が身分制階層社会を構成してきた事に対する下剋上を目論んだ政策である。

表3 調査地域でみられるカースト別の農業就業の形態

カースト名	英語名	カーストによる 伝統的職種	行政区分	現在の農業就業			その他 ^{*3}
				地主	耕作	農業労働	
アイヤール	Iyer	地主・僧職	FC	●			
ピッライ ^{*1}	Pillai	地主・富農		●	●	●	
レディヤール	Reddiyar	耕作	BC	●	●	●	
ナイドゥ	Naydu	耕作		●	●	●	
カラール	Kallar	農民・家畜泥棒		●	●	●	
コナール	Konar	農民・牛飼い		●	●	●	
ガウンダ	Gounder	農民・羊飼い		●	●	●	
チェティヤー	Chetiyar	商人					●
ヴァラヤー	Valliyar	農民・耕作		●	●	●	
アサリ	Asari	大工・金属細工	MBC				●
ワンナール	Vannar	洗濯屋					●
アムバッター	Ambattar	床屋・助産婦					●
パニッカル	Panikkar	農業労働				●	
パラー ^{*2}	Pallar	農業労働など*	SC	●	●		
パライヤン	Paraiyar	農業労働・動物処理				●	
サキリヤール	Sakkiliyar	農業労働・皮革なめし				●	

注：*1 ベラール、ピラマーも含む。 *2 なかには、溜池の水門開け閉め全般を担う者（ニールパッティと呼ばれる）もいる。*3 カーストによる職業に従事している場合など。FC=Forward Caste, BC=Backward Caste, MBC=Most Backward Caste, SC=Scheduled Caste。カーストの伝統的職業については、中村[1984]、柳沢[1995]、水島[1995]、Betteille[2011]を参考にした。

出所：筆者フィールドワーク

今回の調査結果から、今後は以下のテーマで研究を継続させることも可能である。

- ・カースト下層民の社会参加について
- ・カースト・パンチャヤートと開発政策について

加えて文献調査も行い、次回の詳細調査へと繋げてゆきたい。

3. インド東部オリッサ州および西ベンガル州における比較調査

（2月6日～2月13日：オリッサ州、2月21日～3月2日：西ベンガル州）

オリッサ州ではブバネシュワールおよびプリーに滞在し、現地の方と交流を行って見聞を広めることに努めた。またブバネシュワールでは本プログラムの受け入れ教員である田

¹² 例えば州立のタミルナードゥ農業大学では、留保制度に基づき入学基準はカーストの行政区分にそって、次のように異なる。FC カースト＝60 点以上、BC カースト＝55 点以上、MBC カースト＝50 点以上、SC や ST カースト＝合格点以上（TNAU [2010]参照）。

辺教授にお会いし、近況報告を行った。プリーでは滞在したホテルで従業員の結婚式に立ち会い、オリッサ州における農村から都市への労働力移動に関する話も伺った。西ベンガル州ではマニプール州出身の方の招待でコルコタ近郊農村に行く予定だったが、移動日にゼネストが行われて農村滞在はかなわなかった。そのためコルコタのキリスト教会の牧師一家の所に滞在して、マザーテレサの手伝いをしていたという牧師から西ベンガルの政治や歴史の話伺った。また、夫はインド国境警備部隊出身でインド北東部の警備に従事し定年退職、妻はミゾラム州の出身という家族にも話を聞く事が出来た。

オリッサ州や西ベンガル州に滞在するうちに、これまで調査を行ってきたタミルナードゥ州で見聞したタミル人の気質は、ここで出会う人々とはかなり異なることに気がついた。感覚的な印象で証明に繋がるデータを取得したわけではないが、このような気づきを得ることが出来た背景には、他州の人々との交流があったからである。本来の調査地を一步離れて比較考察する機会を持つ事の大切さに今更ながら気がついた次第である。



写真3 ヒンズー教の結婚式の準備



写真4 キリスト教会の日曜学校

4. タミルナードゥ州チェンナイ市における調査

(1月27日～2月5日、2月14日～20日、3月3日～4月9日)

チェンナイでは、文献調査を行いながら調査結果をまとめることに専念した。研究場所は、数年前に開館した9階建てで全館冷房完備のアンナ中央図書館で、市バスで通ってマドライの調査結果をまとめる為に利用した。蔵書は90年代以降に発行された出版物が中心であり、それ以前のは見当たらなかった。どこかの機関の研究者らしき人もこの図書館に入り浸ってPCに向かっていて。去年チェンナイを訪れたヒラリークリントン氏がスピーチを行ったというこの図書館は、現在は州知事の意向で小児病院へと変更される案が出ており、裁判所の判決待ちの状態が開館している。また、街中には私設図書館があり、外国人でも実費で(2週間以内の返却で本代の1割負担)本を借りる事が出来た。こちらは多少古い本や学術書をも含む5万冊の蔵書があり、非常に便利であった。

チェンナイでは最近次々と新しい施設が完成しているが、インドでも他の都市に先駆け

て2か所目の国際空港の建設が開始された。インド北東部のミゾラム州出身の若者がこぞってチェンナイをめざし、ホテルで清掃係として勤務していた。またイタリア製マシーンでアラビカ豆を挽いて淹れてくれるカプチーノを（Rs. 60=約 100 円で）飲む事も出来た。また市内中心に開業したショッピングモールは平日でも客でごった返す人気ぶりだが、3Dのハリウッド映画を（Rs. 120=約 200 円で）観ることも可能であった。



写真5 アンナ中央図書館



写真6 私設図書館の様子

しかし、そうした利便性・快適さの追求がなされる経済発展の陰で、職種別賃金格差による経済格差は拡大の一途を辿る。日本車でクーラーの効いた図書館に乗り付け、資格試験の勉強に励む若者がいる一方で、街の端から端まで 10 ルピー（18 円）で移動できる乗合リクシャは女性、若い求職者の男性、親子の移動などに使われて常に満席である。都市部での一杯のカプチーノは、農村部で男女同一賃金による雇用労働として人気の高い農村雇用創出計画（MGNREGS）による日雇い労働で得られる日給の半分以上である。

私自身、「南インドは安全だから」と言われてこれまで通算で 10 回以上渡航したが、ショッピングセンターで初めて盗難（かばんの置き引き）に遭い、また郵便局から送付手続きをした航空便小包は 3 つのうち 1 つが現在も行方不明である¹³。オートリクシャーに乗ると、以前にも増して場所や料金をだまされる回数が増加した為、一人では極力使わなくなった。こうした都市部での滞在を通して得られた体験により、経済一辺倒の価値観へと流れつつある、経済発展の陰の部分垣間見た思いである。外国人滞在者向けに整備された安全で贅沢な環境に埋没し生活をしていては、こうした変化の潮流を感じ取ることは容易ではないであろう。その意味で、本プログラムによる派遣でインドの市民向けに整備され

¹³ 後でわかった事だが、届いた荷物のうちの 1 つは郵便局員が「船便」扱いでパソコンに登録し、航空郵便の料金を請求して差額を着服していた（その際、「(後ろの人が待っており) 忙しいから早く行け」と言われ、料金の書いた紙は貰えなかった）。インドの郵便局から海外向け荷物(registered mail)の発送手続きを行う際は、郵便局員がプリンターで印刷した登録証（1 つの荷物につき、2～3 個）を受け取り、発送先と料金を確認することが肝要である。

たインフラを極力利用しながら滞在生活を送った事は、今後の研究の進展の上でも無駄足では無かったと信じたい。

5. 今後の課題

今回のインド派遣では結果的に情報収集などのインプット面に重点が置かれたものとなったが、今後は、今回の調査結果・経験を活用してアカデミックコミュニケーションをはかり、自身の研究に対する姿勢や方法を洗練させてゆきたいと考える。

6. 参考文献

押川文子[1990]『社会変化と留保制度』, 押川文子編「インドの社会経済発展とカースト」, アジア経済研究所。

辛島昇[2000]「南アジアの文化を学ぶ」放送大学教育振興会。

佐藤慶子[2012]『インド農村における地域社会の仕組みと組織的行動』重富真一・岡本郁子編「アジア農村における地域社会の組織形成メカニズム」2011 年度・調査研究報告書・アジア経済研究所。

(http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Report/2011/pdf/413_ch6.pdf)

GOI [2001] *Census of India 2001, Series 33 Tamil Nadu, District Census Handbook, Part-B Madurai District, Village and Town-wise Primary Census Abstract*, Government of India.

([http://www.nird.org.in/Prof_RadhakrishnaReporton SY30Apr2009.pdf](http://www.nird.org.in/Prof_RadhakrishnaReporton%20SY30Apr2009.pdf))

GOI[2011] *Census of India 2011. Provisional Population Totals, Paper 2, Volume 1 of 2011, Rural-Urban Distribution Tamil Nadu Series 34*, Director of Census Operations Tamil Nadu, Government of India.

(http://www.censusindia.gov.in/2011-prov-results/paper2/data_files/tamilnadu/Tamil%20nadu_PPT2_volume1_2011.pdf.)

Greenwood, M.J. [1971] "An Analysis of the Determinants of Internal Labor Mobility in India," *The Annals of Regional Science*, Vol.5, No.1, pp. 137-151.

Sato, K. [2011] "Employment Structure and Rural-Urban Migration in a Tamil Nadu Village: Focusing on Differences by Economic Class," *Southeast Asian Studies*, Vol.49, No.1, pp. 22-51.

(<http://kyoto-seas.org/2011/11/southeast-asian-studies-vol-49-no-1-3/>)

Superintendent of Government Printing Calcutta [1908] *Imperial Gazetteer of India: Provincial Series Madras II*.

The Hindu [2012] "Jallikattu: tradition first, safety next" on The Hindu (Madurai version), a newspaper article issued on 15 January 2012.

TNAU homepage [2010] *Admission to Undergraduate Programs Information Brochure 2010-2011*. (<http://www.tnau.ac.in/ugadmi/ugbroch10.pdf>.)

Yanagisawa, H.[1996] *A Century of Change: Caste and Irrigated Lands in Tamil Nadu 1860s-1970s*, Manohar.

以上